



# 岡 津



「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 7月号  
令和4年6月30日  
横浜市立岡津小学校  
校長 下畝 直人  
TEL 811-4104  
FAX 812-4586

## 言葉の持つ力

副校長 松谷隆広

「令和4年度」がスタートして3か月が過ぎ、いよいよ明日から7月に入ります。熱中症を警戒しなければならないほどの暑い毎日が続いております。新型コロナウイルス感染症の感染者数は、日本全体で見ると減ったり増えたりしており、決して予断を許さない状況ではあります。ただ、世の中はwithコロナにシフトしてきています。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置は今年度に入って発令されておらず、コロナと共存していく段階に入ってきているように感じています。そのため、昨年度までは実施できなかったことが、今年度は少しずつできるようになってきています。5月12日(木)と5月13日(金)には5年生が愛川宿泊体験学習に参加することができました。6月1日(水)には1年生と6年生がなかよし遠足で新江ノ島水族館へ行きました。コロナ大流行を未然に防止できているからこそ、実施できた行事です。日頃からお子様の健康観察をていねいに行ってくださいている保護者の皆様のご協力の賜です。本当にありがとうございます。

さて、朝会で全校児童に向けてお話をさせていただく機会があり、学級作りの一助になればと考え「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」についての話をしたことがあります。言葉の持つ力について考えるために小学校の授業で良く使われるものです。「ふわふわ言葉」は相手の心を優しく包み、あたたかく幸せな気持ちにさせます。「ありがとう」「がんばってね」「いいね」と言われるとうれしく、幸せな気分になれます。運動選手を応援する際の声援も効果的であると言われています。反対に「チクチク言葉」とは相手の心をチクチク刺すような、嫌になるような、悲しい気分させるような言葉です。明らかな悪口以外に、大人が子どもの成長に期待するあまりに、きつい口調で言ってしまいがちな「早くしなさい」「どうしてできないの」のように上から押さえつけるような言葉も「チクチク言葉」と言えます。

2018年度に内閣府が当時の13歳から満29歳までの男女に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると「自分自信に満足している」「自分に長所があると感じている」に「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合はそれぞれ45.1%と62.3%だそうです。これは同調査を行った諸外国(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、韓国)と比べるととても低い結果だそうです。一つの指標ではありますが、国際比較した際に日本の若者の自己肯定感が低いのはとても気になったことを記憶しております。自己肯定感を高めていくためには、どうしたら良いのか考えさせられた調査結果でした。自己肯定感とは他者と自分の区別がつく4歳頃から育ってくると考えられています。子どもたちが「できる・できない」のものさしで自分を見ている時に、私たち大人は「子ども自身の良さ」に目を向けさせるようなあたたかい声かけをしていく必要があるのだと思います。

コロナ時代に入り、早いもので3年目になりました。冒頭で述べた通り、終息の見通しはまだまだ立ちませんが、学校行事が満足に行えなかった頃に比べると、少しずつですが学校は本来の姿を取り戻しつつあります。このような時代だからこそ、子どもたちには、今まで以上に、ふだん使う言葉、心に浮かぶ言葉を意識しながら過ごして欲しいと願っております。私たち大人もその見本になりたいものです。

7月21日より、長い夏休みに入ります。子どもたちにとっては、いつもよりたくさん時間のあるこの時期。保護者の皆様にとっては忙しい毎日かとは思いますが、ぜひ、お子さんに家のお手伝い等の役割を与え、「がんばったね」「すごいね」「ありがとう」とたくさん褒めてあげてください。夏休み明けに元気な姿で登校して来るのを楽しみにしております。